

肌と心に寄り添う肌着を。患者様のQOLを高めるケアの輪を広げたい。

MediCure News

メディキュア ニュース by GUNZE

2017年

vol.

2

特集

＜インタビュー＞

3名の認定看護師に聞きました

チーム医療と セルフケア支援

専門家が連携してQOLを高める

八尾市立病院の取り組み

連載

知っておきたい肌着のこと Vol.2 「吸湿性の良い素材選び」

明日をもっと、こちよく
GUNZE

特集 <インタビュー> 3名の認定看護師に聞きました

チーム医療とセルフケア支援

専門家が連携してQOLを高める 八尾市立病院の取り組み

横山敬子氏 皮膚・排泄ケア認定看護師 創傷特定看護師

吉野知子氏 乳がん看護認定看護師

島田敏江氏 がん化学療法看護認定看護師

2017年6月22日(木)開催 場所:八尾市立病院

がんを患っても自分らしく生きたい。今、患者様の「がん後」の人生が変わろうとしています。これまで通りの生活や「自分らしさ」を保ちたいと願う患者様のために、治療中だけでなく治療後も細く長く支える支援が医療現場に求められています。スタッフが情報を共有しながら互いに専門性を活かし、患者一人ひとりのセルフケアを支援するチーム医療のパイオニア、八尾市立病院の認定看護師3名にお話を伺いました。

1) 患者様の話を聞く「不安ケア」の大切さ

看護師の電話相談で悩みの9割5分は解決

吉野 治療が終わった後も、「不安や悩みがある」と私たち認定看護師に電話をかけてこられる患者様は多いです。実は悩みの9割5分は、看護師との電話相談で解決できるんですよ。まずは、何が不安なのか聞いてあげることが大切。緊急処置が必要なトラブルか、家で解

決できる術後の変化かを判断してあげると、患者様は安心されます。診察が必要なら、乳腺外科か形成外科のドクターにつながります。私は「いつでも電話して

いいし、来てもいいよ」と伝えていきます。患者様には「聞いてくれる存在」が必要だと感じますね。

外来で患者様の不安を和らげる情報提供を

横山 私は病棟と外来を兼任し、ストーマ外来も担当しています。がん治療は5年をめぐりにドクターの手を離れることが多いですが、当院では治療終了後も外来で相談を受けています。他院から来られた方も受け入れていますよ。学会や勉強会で患者様のケアに役立つ新しい情報が続々と入ってくるので、「最低でも年1回は外来に来てね」と患者様には伝えていきます。有効なケア商品の情報も積極的に提供しており、最近では、グンゼの商品「カッティングチューブ(切って使える腹帯 ※今秋に発売予定)」を試用してもらいましたが、冬の寒さや夏の汗対策にいいと好評でしたね。



吉野知子氏略歴
よしのともこ

2004年入職。乳がん診断後のメンタルケアから手術・抗がん剤・ホルモン剤治療、緩和ケアまで担当。

2) 八尾市立病院チーム医療の強み

チーム内で患者様の情報を共有

吉野 まず、「どんな患者様なのか」という情報をスタッフの間で共有してから接します。がん告知にショックを受けている方であれば、メンタルケアも含めて情報を共有しています。

島田 スキンケアの場合、患者様の通常の皮膚状態だけでなく、日頃どんなポリシーでケアをしている患者様なのか、あらかじめ理解し

ておくとスムーズです。

横山 一人でできることは限られているので、他のスタッフを巻き込む努力をしています。今話題の「チーム医療」ですね。

診療科をこえて、専門性を活かして連携プレー

吉野 最近、ドクターも診療科の垣根をこえて患者様に向き合ってくださいようになりました。

横山 例えば、足潰瘍のある糖尿病の患者様が入院するとすれば、チームで動きます。フットケア外来と創傷特定看護師が対応し、ドクターは複数の診療科が連携してフォローします。血糖コントロールは糖尿病センターが行い、創は形成、血管拡張は循環器内科など、連携プレーが自然にできるようになりました。皮膚障害のスキンケアは、放射線科、口腔外科や耳鼻科などからも対応を依頼されることもあります。



横山 敬子氏略歴
よこやま けいこ
1986年入職。褥瘡から難治性の創傷まで幅広くケア。入院・外来問わず、診療科をまたいで担当。

横山 スタッフは自分の専門知識やスキルを持ち寄り、スケジュールを調整しあって患者様に対応しています。また、薬剤師も頼りになるチームの一員です。がん薬物療法認定薬剤師に問い合わせれば、新薬の情報などを、的確かつ速やかに提供していただけるので、ケアの良き判断材料になります。また、外来化学療法室に毎日顔を出してくれますし、病棟では病棟の薬剤師がベッドサイドで薬の説明をするので、患者様は安心されますね。

3) 大きく変わったがん治療とその現場

ネット情報に振り回される患者と家族たち

吉野 スマートフォンは便利ですが、みんなが情報に振り回されています。ドクターが話している最中でも患者様やご家族が調べて、画面を見せることも。「ブログは信頼性が低いし、参考になる情報はせいぜい2~3割」と説明しますね。

島田 個人のブログに書いてある治療経過に、自分を重ね合わせてしまうんですよ。「この人は何日目でこうなっているのに、私はならない」と心配する方には、「がんの治療は百人百様、この人とあなたは違いますよ」と言って安心させます。

男性患者のセルフケアとアピアランスケア

島田 男性は皮膚障害があっても言わないし、自分でスキンケアする方も少ない。「低刺激の下着がありますよ」と言ってもピンとこないのが、かわりにご家族に伝えます。そして、男性にもアピアランス(外見)ケアも必要ですね。ある男性の患者様が「女性用ウィッグが欲しい」とおっしゃるので驚いて話を聞くと、サーフショップの経営者だったんです。サーファーは茶髪やロングが多いし、イメージ重視の仕事をする方にとって、死活問題だとわかりました。男性の「言わない」「言えない」気持ちや、外見のケアは大切です。

吉野 男性の患者様から、「もう50代やし髪の毛なくなってもいいやろ」って言われて、ショックだった」と打ち明けられたことがあるんです。「オールバックが自分のスタイルなのに、坊主になるなんて」と。外見に悩むのは、男性も女性も同じだと痛感しました。

看護師の発案で積極的に課題解決

島田 当院で、男性向けのアピアランスケアセミナーを予定しています(取材時)。告知の仕方が難しくて、「外見の変化」といっても具体的に伝えないと男性はわからないんですよ。

吉野 そうそう。ポスターには「男性だって、髪のこと、爪のこと、お肌のこと、いろいろ気になりますよね」という文言を入れました。でも、なかなか参加に踏み切れない方が多くて。

島田 ドクターに「こういうのがあるけど、どう?」って勧められた患者様からは、実際に申し込みがありました。



病院が主催する、患者向けの講座や勉強会を紹介するチラシ。企画やチラシ作成も看護師自らが行っている。

細く、長く。
続けていくのが大事。

横山 それから、ハンドクリームや保湿剤などの購入方法がわからない人のサポートも必要。特に男性は、皮膚のひび割れから感染しやすい状態になっているのを放置している人が多く、院内で検討し、売店でケア用品を買えるようにしました。

吉野 高齢の患者様の場合だと、どのように購入したらよいのか判らない方もおられるので、一緒に買ってみることも。軟膏や保湿剤は看護師が自分で使ってみて、患者様に塗り方などを伝えていますね。

ドクターの意識が変わり信頼関係も深まった

吉野 最近はドクターが、患者様の立場に立って励ます姿をよく見かけます。「髪がまた生えてきてよかったね」とか。

横山 私たちの看護にも協力的で。例えば、「運送業で手袋をつける必要のある方だから、手をケアしてあげて」とか、こちらから聞かなくても患者様の情報をくださるんです。

吉野 ドクターが私たちを信頼して、相談に来られる機会が増えたこ

ともうれしい。女性特有の悩みのケアや、抗がん剤の重篤な副作用を防ぐケアの必要性を実感されているんですね。

島田 私は、ケアフローの資料をドクターと共有しています。抗がん剤治療開始とともに、副作用を軽減するために処方してほしい薬と、患者様に必要な説明事項をまとめています。



島田敏江氏略歴
しまだとしえ

2000年入職。外来化学療法室に所属。自宅で生活し、通院しながら抗がん剤治療を受ける患者の支援を担当。

4) 「その人らしく」生きるための支援を

患者様一人ひとりの目標と一緒に考える

島田 治療の目的は、治癒・延命・緩和など人それぞれ。私たちは患者様ができないことは強要しないで、できることを助け、その人らしく生きていくことを支えていくんです。

吉野 今までどおり暮らしたいとか、再発後は力を緩めて暮らしたいとか、生活を「ギアチェンジ」するタイミングは人によって違います。だから、最初に患者様と一緒に目標のレベル設定をすることが大切。仮にドクターが「来週から治療スタート」と決められても、心の準備ができていない方もいます。待てる状況なら「治療開始を1週間延ばしましょう」と、私からドクターにお願いすることもあります。患者様が途中で治療を後悔したり、断念したりしないように。患者様が目標をひとつ一つクリアする姿を見ると、チームの喜びになりますね。

「細く長く」続けていけるセルフケアを

横山 術前・術後・社会復帰など各段階で向き合うべき問題が次々と出てきますが、患者様は先のことを全く想像できません。情報は最初に全部伝えるよりも、引き出しを少しずつ開けるようにその都度タイムリーに伝える方がいいですね。

吉野 患者様は歩みを一度止めると、再び前に進むのが大変。例えば、皮膚障害が起きやすい分子標的薬(特に上皮成長因子受容体: EGFR)は、投与をやめると皮膚症状は落ち着きますが、病気の治療が止まってしまう。上手にバランスを取りながら治療を続けるアドバイスが必要ですね。また、「あれもこれもケアするのは無理!」とお手上げの患者様には、「私はこうしてみたらできたよ」と説明すると頑張っ

てくれます。

島田 スキンケアが心地いいもので、結果が目に見えれば、患者様も無理なく続けていけるんですね。

吉野 生きていくための治療なので、“太く短く”ではなく、“細く長く”続けることが大事。特に再発された方は、病気をコントロールするために治療を継続しないと。

横山 患者様が家に帰り、仕事もできるように「がんとともに生きる生活」を支えなければいけません。私たち認定看護師は、患者様一人ひとりが支援を求めるタイミングを計りながら、細く長く支えていきたいと思っています。



八尾市立病院

1950年(昭和25)開院し、地域医療の中核的役割を担う。21診療科、病床数380床(2017年8月現在)。専門性の高い診療と高度医療機器による検査・治療を行い、がん相談支援センターを設置するなどがん患者の手厚い支援を行う。地域がん診療連携拠点病院(国指定)。

<http://www.hospital.yao.osaka.jp>

<インタビューを終えて>

肌だけでなく、気持ちまでいたわる支援を。

柳井里予(グンゼ株式会社 アパレルカンパニー インナーウェア事業本部)

がん治療に伴う苦痛を和らげ、患者様が治療後の人生をより豊かに自分らしく生きられるように、私たちインナーメーカーはどのようなお手伝いができるのでしょうか。例えば、メディキュアのサポートキャップは、ウィッグのインナーキャップやアウターとして開発しました。今後は頭皮のケアはもちろん、メンタルケア・アピランスケアにもお役立っていただけるように情報発信してまいります。



メディキュアサポートキャップ

医療現場と患者様の声から生まれた低刺激性キャップ。ゴムを使わず、縫い目も減らしました。ウィッグの下に装着できるショートタイプと、ゆったりしたレギュラータイプの2種類。

「吸湿性の良い素材選び」

吸湿性の高さにも注目! うるおい保つレーヨン素材



川崎陽子
グンゼ株式会社
研究開発部

抗がん剤治療や放射線治療などに伴う皮膚障害をケアする際には、「肌へのやさしさ」だけでなく、「吸湿性の高さ」にも注目して肌着を選びましょう。第2回は、レーヨン素材の優れた吸湿性と肌着選びのポイントについてご紹介します。

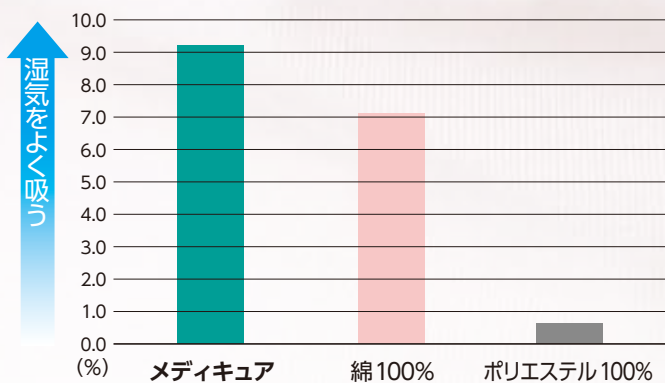
吸湿性の高い素材とは?



ウール・シルク・レーヨン・綿など天然原料から作られる素材は、吸湿性の高いものが多くあります。一般的に、汗などの水分をよく吸収する吸湿性の高い素材としては、綿を思い浮かべる人が多いかもしれませんが、パルプから作られるレーヨンは、綿以上に吸湿性に優れた素材であることをご

存知でしょうか? レーヨンは繊維の表面や内部に多くの水分を取り込むことができるため、「うるおいを保つ繊維」といわれているのです。一方で、石油などから作られる合成繊維のポリエステルは、吸湿性の低い繊維の代表格ですが速乾性に優れているため、その特性を活かした高機能肌着も開発されています。

生地水分率の比較



グンゼ調べ (JIS L1096 法準拠)

※JIS L 1096法 20℃×65%RH環境での生地吸湿量を測定

合成繊維が肌に触れない工夫を 機能とやさしさを両立するメディキュア

放射線治療後は、皮膚が特に乾燥しやすい傾向があります。皮膚の乾燥が気になる場合は、吸湿性が高くうるおいを保つレーヨンや綿の肌着を選ぶと肌への刺激が少なく、皮膚表面の湿度を適度に保つことができます。

グンゼ「メディキュア」の低刺激インナーは、はさみでカットしてもほつれにくい機能を持たせるため、生地にはレーヨンや綿など天然原料の素材とともにポリウレタンも使用しています。ただし、ポリウレタンが肌に直接触れないよう編み立てを工夫。合成繊維を使いながらも刺激が少なく、なめらかで柔らかな肌ざわりを実現しているのです。また、肌着が吸った汗や衣服内のムレを素早く逃すため、肌をいつも快適サラサラに保ちます。



術後の敏感な肌に悩む方へ。
着けやすさと肌への
やさしさを考えた低刺激
前開きハーフトップ。

日本製
made in Japan

MediCure
メディキュア by GUNZE

— Half Top —

きりっぱなし生地

自分で
カットOK
ほつれにくい

天然素材にこだわり

肌に
ふんわり
やさしい

ハサミで簡単カット!

例えば脇下など、創があたり
やすい部分を、お好みの形状
にカットできます。



※前開き部分は切らないよう
ご注意ください。

※ボトムはメディキュアハイウエストショーツを
折り返して着用しています。

患者さまのお悩みに寄り添い、細部まで「負担を減らす」工夫を。
たくさんの患者さまのお声をもとに、着け外しが簡単で肌への刺激が少ない設計や縫製を徹底的に追求しました。

スナップボタン



大きめのスナップボタンだから、留め外しが簡単。プラスチック製で軽く目立ちにくい。5か所のスナップでしっかり留まり、ズレを防ぎます。

パッド挿入部(肌側)



肌あたりが気になるパッド挿入部は完全無縫製®。洗濯しても剥がれにくい特殊な接着剤で生地を接着。縫い目がなく肌にやさしい着心地です。

胸パッド



初めての方でも使いやすいようにパッドを付属。取り外しできるので、自分でアレンジも可能です。

幅広ストラップ



肌にくい込みにくいきりっぱなし仕様で、敏感な肌への刺激を軽減し、ストラップのズレ下がりも防ぎます。女性らしいデザインもうれしい。

編集後記

グンゼ株式会社 QOL研究所
企画調査室 室長
上島 進

特集インタビューでは八尾市立病院の認定看護師3名にご協力をいただき、この場を借りて深く感謝申し上げます。お話を伺って、働きながら通院治療を続けて自分らしく生活したいと切実に願う患者様が多いことを、改めて実感しました。また同じ男性として、男性の肌着選びやスキンケア、アピアランスケアへの戸惑いには共感します。男性のSOSサインを汲み取ってセルフケアに導く、これまで手が回りにかかった支援にもさまざまな取り組みが行われていることに希望を感じました。患者様一人ひとりと向き合って細く長くセルフケア支援を続けることは、私たちにとっても大きな課題です。グンゼ「メディキュア」は肌へのやさしさを追求する商品ですが、今後も「現場の声を製品に」をテーマに、さまざまな方との出会いを大切に、QOL向上に貢献できるような努力してまいります。



商品について、より詳しい内容は

グンゼ メディキュア



「メディキュア」ブランドサイト

<http://www.medicure-gunze.com/>

